第三國際……二九五
第四國際……〃
國際共産党……〃
國際交渉……二九六
第二第三共産党系團……〃
タタリツス共和国……〃
タタリツシ……〃

（チ）

地下運動……〃
地下運動委員會……〃
チェコスロヴァキア……〃
中国革命……〃
直接行動……〃
直接決戦……二九七

（テ）

帝國主義……〃
テーゼ……〃
テロル……〃
電化……〃
ドイツ……〃
ドイツ・ソヴィエト……二九八
動産……〃

（ツ）

倉庫……二九九
ツイニット……〃

（タ）

大衆……二九九
大衆政治……〃
大衆政治組織……〃
大衆政治組織組合會議……〃
タクチツク……〃
タラクロ……〃
大石……〃
大石貫……〃
第一インターナショナル……〃
第二インターナショナル……〃
第二半インターナショナル……〃
第三インターナショナル……〃
第四インターナショナル……〃
第一國際……〃
第二國際……〃
ダンゼーラン……〃
ダンゼーラン・ブロック……〃
ダンゼーラン・ソヴィエト……〃
ダンゼーラン・ストライキ……二九九
ダンゼーラン・スト……〃
動産……〃

（ツ）

ツイニット……〃
倉庫……三〇〇

（ト）

ドイツ……〃
ドイツ・ソヴィエト……〃
ドイツ・ストライキ……〃
ドイツ・ブロック……〃
ドイツ・ブロック……〃
ドイツ……〃
ドイツ……〃
ドイツ

ガルフ・ソーロー……三〇四
英佛海底電線……〃
ガルベストン……〃
ガルベストン・ハリケーン……〃
ガルベストン・ドック……三〇五

（タ）

タイガス……〃
タイガス・ストーブ……〃
タイヤ……〃
タイヤ・ゴム……〃
タイヤ・チューブ……〃
タイヤ・ホイール……〃
タイヤ・ゴム……〃
タイヤ・ゴム……〃
タイヤ・ゴム……〃

（ツ）

ツイン・ケーブル……〃
ツイン・ケーブル……〃
ツイン・ケーブル……〃

労働者代表者人……〃
労働者代表者……三一〇
労働アジテーター……〃
労働組織……〃
労働全国大会……〃
労働者委員会……〃
労働者会議……〃
労働者大会……〃
労働者生活……〃
労働者委員……〃
労働者大会……〃
労働者組合主義……〃
労働者組合法……〃
労働者組合……〃
労働者組合活動……〃
労働者代表……〃
労働者……〃
労働者……〃
労働者文法……〃
労働者貴族……〃
労働者代表……〃
労働……〃

（ロ）

ロシヤ革命デー……〃
ロシヤクラブ……〃
ロシヤ革命……〃
ロシヤ……〃
ロシヤ……三一〇九

一、社會運動語彙

（ア）

アムステルダム・インターナショナル

反共產主義的勞働組合の國際的團結、一名黃色インターナショナルとも呼ばれる。詳細は本書參照

アカチアン

「赤旗」の歌曲赤旗の項參照

アジテーション

煽動

アジテーター

煽動者

アジト

アジテートポイントの略、アジテートする際に用ふる集會所、特に秘密的な革命指導者の宿に用ひられる。

アジする

煽動する

アジ、ビラ

煽動ビラ

アジ、プロ

煽動宣傳

アジア勞働會議

大平洋勞働組合會議に対立するアジア諸國の右翼勞働組合會議の連合

アルテル

勞働力だけをもつ農民が組合を組織し土地と生產手段を組織して營む一種の集團農業

アナーキスト（アナ）

無政府主義者

アナルコ・サンジカリズム

本書參照

（イ）

イスクラ

火花といふロシヤ語。一九〇一年明治卅四年レーニンが始めたマルクス主義宣傳の機關新聞の名。

イデオロギー

觀念又は考へ方

移動本部

官憲の迫害から逃れて移動しつつ活動を續ける指導部。アジトとは區別して使用せられる。

移動劇場

左翼劇團が演劇により勞働者の階級意識を呼び覺し或ひは激發する爲に工場組合等數所に劇場を開設する事「トラック劇場」などと名稱をつけたものがある「プロット」參照

イニシアティーブ

發議權と譯する。政治用語としては議會に法案を提出する權利をいふ。併し勞働運動用語としては議會等を手足として提唱し或は指導する場合に用ひられる。例へば日本農民組合は政黨組織にイニシアティーブをと

つた」の如きである

インプレコル

インターナショナル、プレス、コレスポンデンスの縮略。即ち第三インターナショナルの機關通信である。

インテリゲンチヤ

智識階級と譯す

インテリ

インテリゲンチアの略「彼はインテリ出身だから鬪爭力が弱い」などといふ

(ウ)

ウキーン・インタナシヨナル

第二半インターナショナル（社會主義勞働インターナショナル）詳しくは本綱參照

右翼

勞働運動に於ける漸進派

右翼解黨派

右翼清算派ともいはれる。清算派及び解黨派の條參照。

裏切り

罷業破りのこと「スキャップ」に同じ

ウルトラ・リンケン

極左翼といふ獨逸語で、左翼共產主義又は左翼小兒病のこと。

(エ)

エス・エル（S・R）

ロシヤ社會革命黨の略稱。ロシヤ共產黨成立前の急進派。ロシヤの共產革命が成立する前一時帝政後落後の政權を握つてゐたケレンスキーは社會革命黨の代表者。

エドキンテルン

國際赤色教育勞働者組合、アムステルダム系の教育者インターナシヨナルと對立してゐるもの。

エル・カー・ペー（R・K・P）

露西亞共產黨の略稱

エル・エス・エフ・エス・エル（R・S・F・S・R）

露西亞ソヴイエット聯邦社會主義共和國の略稱

エーゼンント

共產黨員にあらざるも黨の影響下にありて宣傳煽動の運動をなすもの

(オ)

横斷組合

縱斷組合を見よ

オープン・ユニオン

組合員の加入資格を制限しない勞働組合、開放組合と譯す。

オープン・シヨツプ

開放工場と譯す。語の最初の意味は、組合がその組合員のみの雇傭權を有した工場を言つた。即ち組合工場であつた。しかし意味は今や全然轉じて工場の勞働者が全然組合員でない工場（非組合工場）、組合員のみを雇ふといふ團体契約を組合としてゐない工場、或は組合員もあるが非組合員もある工場（即ち締付られてゐない工場）を意味んでゐる。

オルガナイザー（オルグ）

政黨又は組合の役員であつて未組織大衆の組織化を職分とするもの。

溫情主義

家族主從間の人情的恩惠的關係を勞資間にあてはめこれが激化を防ぎ若しくは問題を解決し得べしとする主張。

(カ)

カール・ローザ・デー

一月十六日、一九一九年、大正八年）獨逸の革命家カール、リーブクネヒト（男）とローザ、ルクセンブルグ（女）とが多數派社會民主主義政府に殺され其の屍体が發見された日。

カー・ペー（K、P、）

獨逸語で共產黨の略。

解黨派

二つの意味がある。右翼解黨派とは共產黨の活動を改良主義的、乃至合法主義的に清算せんとする右翼共產派の言動である。左翼解黨派とは議會を利用する曝露戰術や、右翼組合への喰ひ込み等を排撃して、共產黨の活動を一切非合法の範圍に極限せんとする左翼共產派の言動を指してゐる。レーニンは前者をメンセヴイキといひ後者を左翼小兒病と呼んで攻擊した。

解放運動者犧牲者救援會

昭和二年末に起つた野田醬油の爭議（總同盟系）を機として創立されたが三、一五事件以後絕対的鋒鋩を現はしロシヤにある「革命鬪士國際援助團會」（モツプル）の組織に倣ひ共產黨の援護機關たるの任務を果さんとするに至つた。現に活動の中心分子は地下に隱れて潛行運動を續けてゐたが、昭和五年八月その實体を清算して「赤色救援會日本支部」と稱してゐる。機關紙救援新聞

學聯

（FS）、舊「全日本學生社會科學聯合會」の略稱である。學聯は大正十三年九月成立（學生聯合會の改稱したもの）した。爾來學聯は社會科學の研究に名を藉つて專らレーニズム、マルキシズムの研究に沒頭し屢々實際運動に參加するに至り、大正十五年一月所謂「京大事件」が發生するに及んで急激に社會の耳目を驚かした。其の後高等專門學校に於ける學生社會科學研究會を禁止し更に三、一五事件に際し學生の聯座するものが多かつたので大學に於ける該研究會も禁止することとなつた。其の後に於ても尙秘密裡に研究が續けられてゐたが、昭和四年四月以來組織方針と運動方針とを根本的に變更し學聯は順次日本共產黨乃至日本共產青年同盟に解消すべきものとせらるるに至り、從來の樣に有力學生分子を學聯に集中せず實際鬪爭團体（反帝、モツプル、無新、無青等）に夫々配屬した。所謂學校鬪爭は彼等一派の最も希望するところで、機會さへあいば之等紛鬪を起し學生の反抗意識を煽り之を誘因として日本共產黨乃至日本共產青年同盟の擴大强化を圖らんとし、かくて昭和四年十一月學聯の實際上の主体であつた東京帝大「新人會」は解体聲明書を發表して日本共產黨乃至日本共產青年同盟に解消することとなつた。從つて學聯は存在しないこと

となつたが、學生間には街頭青會(R、S)其の他の形式により公然と或は秘密裡に赤化の連絡を結びつつある

街頭班
職場を離れた左翼運動者が職場の外から職場へ働き掛ける場合の組織

街頭デモ
無產紀念日其の他の場合職場より街頭に出て行ふ示威運動。

街頭連絡
街頭に於て日時場所指定して連絡をとる方法

階級鬪爭
詳しくは本編マルクス主義參照

開放組合
オープン・ユニオンを見よ。

開放工場
オープン・ショップを見よ。

改良主義
一般用語として御濟制度の根本的變革を要求する社會主義に反對して社會正義によつて社會を改良せんとする政策。勞働者用語としては組合運動、社會主義運動に於ける保守派漸進派、右翼派の理論と政策。

科學的社會主義
マルクス主義

カカンニ
サボタージュ。スコットランド語に「カカンニ」とはゆる〳〵やるといふ意味である

擴大執行委員會
勞働團体(組合、政黨)の執行機關は大會に次ぐ最高機關である。そこで執行委員會のみでは決し兼ねる比較的重要問題が起りそれを決する場合に大會を開くことが不可能か或はそれほど重大でもない時に執行委員に構成團体、或はそれぞれ定まつた單位の代表者を加へた會議を開く、これを擴大執行委員會といふ。

學生ハルタル
プロレタリヤ意識の旺な學生で學業を捨て無產運動に從事する者をいふ。ハルタルは印度語で罷業の意味がある。

カスチング・ヴオート
可否同數の時議長の投ずる裁決投票の謂。相爭ふ二派の間にあつて決定權を握つてゐる場合に「カスチング、ボートを握つてゐる」と言ふ。

カフエー・マルキスト
マルクス・ボーイと言ふのと大差ない。實際運動のゴシップ(雜話)に通じ社會科學の一端には精通してゐても、マルキシズムに對する眞の理解者でもなく實際運動にも携はることが出來ないにもかかはらず、カフエーでマルクスがどうの、レーニンがどうのとお喋りをする連中を言ふ。

壁新聞
勞働者の合宿、事務所、集會所等の壁を利用してビラや新聞の切拔やポスターを手際よく綴糊し張りつけてつくつた一種の新聞の樣な告知板を言ふ。

カムフラージ
無產運動の戰術用語としては「擬裝する」といふ語である。即ち一つの運動、一つの要求を出すにも資本家の攻擊を避ける爲にそれを表面上では穏和された運動形態及び要求でつつむ樣なことである。

假名
變名ペンネームの項參照

カルテル
企業聯合

カンパニア
戰鬪又は運動の窓、種々な機會を捕えて起す大衆的鬪爭、例へば「カールローザ紀念日のカンパニア」。

カンパ
カンパニアの略稱

飢餓行進
大都市を目標にして周圍の小都市等から出發して行進する失業者の行列、失業反對鬪爭の一方法

飢餓同盟
社會運動者が投獄によりこれが運動を彈壓せられたる等の場合、給與せらる食を拒んで示威する手段、ハンガー・ストライキ

(キ)

基督教社會主義
本編參照

共產主義
社會の一切の財產を共有とし、萬人が能力に應じて働らき必要に應じて消費する社會を實現しようとする思想である。共有財產を地方分權的な自由聯合によつて管理させんとする主義は無政府共產主義といはれる。共產主義は之に反し、其の社會の共有財產を中央集權的に集中して萬人の交替勤務の機關によつて管理せんとする主義である。又狹義の社會主義は、生產機關のみを共有して消費貨物の私有を認め國家によつて此の如き社會を管理せんとする主義である。社會主義は消費貨物の共有を認めない點に於て共產主義と區別される。マルクス主義は共產主義である。このマルクス主義に對しては後、革命主義を排して漸進主義を採り議會による社會の改革を認めんとする修正派社會主義乃至社會民主主義を生じた。然るにロシヤ革命の結果ロシヤのボルセヴイキはマルクス主義の正統を以て任じ、修正派社會主義乃至社會民主主義より區別して自ら共產主義と稱した。故に今日共產主義といはれるのはボルセヴイズム(乃至レーニン主義)によつて代表せられるマルクス主義の意味に用ひられ、社會主義とは獨逸の社會民主黨によつて代表せられる社會民主主義の意味に用ひられてゐる。

共產黨宣言
一八四八年マルクスにとつて起草せられた共產主義同盟の綱領。尙本篇參照。

共產黨
古くにはマルクスによつて指導されてゐた共產主義同盟があつたが、今日共產黨と稱せられるのはロシヤの第三インターナショルに加盟してゐる各國の共產黨を指す。

協同組合
協同組合は社會主義の先驅者ロバート・オーエンによつて始められたもので勞働者の

消費の爲め、中間に於ける商人の利得を除して、商品を購買し分配し或は之を生産し、又は金錢の貸借を爲して、相互扶助的に經濟利益を得ようとする團体である。其の形態には消費組合、購買生産組合、生産信用組合(金融)の三がある。所謂産業組合は非階級的な組織であつて組合の設立ある郷町村の全住民を組合員としてゐる點に於て勞働者の協同組合と異る。

救援新聞

共産系の解放運動犠牲者赤色救援會の發行する新聞。同會が解放運動犠牲者救援會と稱した頃から同名である

協調會

大正八年に内相床次竹二郎氏が渋澤氏等と共に設立した勞資協調機關である。協調會館は東京市芝區にある同會の集會所

强制調停

爭議調停法參照

虚無主義

ニヒリズムとをいふ。本來無政府主義運動

金融資本

本編經濟組織發達參照

議會主義

本編無産者政治運動の項參照

キャツプテン

コンミユニスト・グループの統率者

キャツプ

キャツプテンの略

ギルド社會主義

ギルド社會主義とは國家の協力の下に勞働者の自治的團体の手で全産業の統制管理を行はんとする一種の社會主義思想であつて、一九〇〇年(明治三十三年)頃から實際運動としてコール其の他の人々によつてイギリスで試みられたものである。生産手段の國有を認めてゐる點はマルクス主義の樣であるが、勞働團体たるナショナル・ギルド(全國組合)の全産業統制權を主張するところはフランスのサンジカリズムに近いものである。この産業自治と賃銀制度の撤廢とを特徴とするギルド社會主義社會に於ては、議會は從來の如き地域的選擧區の代表者から成る政治議會の外に産業別の全國ギルドの代表者で組織した産業議會も設けられ兩者の聯合委員會が國家の最高機關となる

ギルド

中世に於ける商人の同業組合

キム

ロシヤのコミンテルンの加盟團体である國際青年共産同盟のこと。

技術部

テクと稱する。共産黨には組織部、政治部、組合部等夫々部署を定めて中央本部を形成してゐるが、昭和四年夏以來「技術部」を設け秘密會合の場所、金策、黨員の潛伏住宅の選定等の仕事を受持つものをつくつた

キンヅ

アカチヤンと同じく「赤旗」の隱語

(ク)

空想的社會主義

本編ユートピヤ社會主義の項參照

クーデター

佛語で非常手段と譯する。これは政治的變革を行ふ爲に武力を以つて一擧に反對派を一掃する手段をいふ。

クートペー

東洋勤勞者共産研究所、東洋民族の共産主義闘士の養成所、これよりも一層高級な理論を研究するのにレーニン研究所がある。

喰ひ込み

共産主義者　社會民主主義の政黨乃至組合に潜入して之を内部より攪亂すること。

組合主義

本編勞働組合運動の項參照

組合官僚

組合の基礎が確實となるにつれて組合の幹部の行動は自重的になつて行く、此の幹部の態度を罵つて組合官僚といふ

クラーク

ロシヤの農村にゐる富農

クローズド・ショップ

語そのものの最初の意味は、ストライキやボイコットの故を以つて或る特定の組合の加盟員に對し或は又一切の組合勞働者に對し閉鎖(雇入れない)してゐる工場を稱した。この場合には閉鎖工場と譯される(但しロックアウトの譯である工場閉鎖―工場締出しと混同してはならない)。しかし今や意味が全く轉じて、今日では、ある勞働組合とその組合員のみを雇入れるといふ團体契約を結んでゐる工場をいふ。この意味では締付工場と譯される。現在では此の後者の意味に於てのみ使用されてゐる。

クレスチンテルン

ロシヤのモスコーにある共産主義農民のインターナショナルの名。

(ケ)

經濟闘爭

政治闘爭に對する語。經濟闘爭とは直接に資本家や地主等を相手にした無産階級の闘爭である。經濟闘爭は部分的闘爭又は日常闘爭とも稱せられる。

輕工業

主として纖維工業(木綿織物)を指す。

結社

普通の用語に於ては政治上の目的を有する二人以上の結合をいふ。

ゲー・ペー・ウー

ロシヤ語。國家保安部と譯される。チェツカの廢止後に設立されたロシヤ勞農政府の高等警察機關である。

現實主義

勞働運用語としては主として勞働組合が理論のみに拘泥せずその國の特殊の事情並に形勢に即した政策によつて運動をするものをいふ。

(コ)

綱領

團体の目標、運動の須序、行動規範を示したものである。

黄色インターナショナル
第二インターナショナルを指すこともあるが一般的にはアムステルダムの勞働組合インターナショナルのこと。

黄色組合
階級協調組合のこと。

工代會議
各工場から選出された工場代表勞働者の會議。

行動隊
三四人でピラマキその他の運動に部署を定め見張、防衛、撒布、貼付等夫々組織的に活動する一隊

工場委員會
本編參照。

工場細胞
細胞の項參照

工場閉鎖
ロックアウトを見よ。

國際勞働會議
本編參照。

國際反戰デー、國際赤色デー
八月一日、帝國主義戰爭反對の國際運動日

國際無產婦人デー
三月八日。一九一七年三月八日ペトログラードの紡績女工の大罷業は三月革命の導火線となつた。第三インターナショナルの國際婦人同盟はこの日を記念として國際婦人デーと指定し勞働婦人解放の爲に運動をすることとした。

國際勞働デー
五月一日。メーデーのこと。

國際無產青年デー
九月第一日曜日。一九一五年四月ベルンの反軍國主義國際青年大會に於いて決定された國際的反軍國主義デーである。青年共產インターナショナルもこの日を國際無產青年デーと指定してゐる。

國家社會主義
一切の生產機關を國有にして國家が產業を管理するをいふ。

コドモ
共產黨で「共產青年同盟」の隱語、日本共產青年同盟の項參照

國家資本主義
資本主義組織の一形態として產業を國家に集中して之を統制せんとするをいふ。

黑色勞働組合
無政府主義勞働組合

黑色青年聯盟
我が國に於ける「クロポトキン」の主張にかかる無政府主義の思想を奉ずる團体、大杉榮の死後はその中心を失ひ、きわめて少數の同主義者により指導せられて居る。

コミンテルン
コンミュニスト・インターナショナルの略稱。
第三インターナショナルのこと。

コルホーズ
共同經營農場のこと。

コンミュニスト・グループ
日本共產黨は第一次共產黨事件後一旦解黨したがこれが殘務整理委員(ビウロウ)は再

組織の準備運動機關としてコンミュニスト、グループを形成した。

御用組合
資本家の御用をつとめる組合。

(サ)

細胞
ニュクリアス(英)、ヤチエーカ(露)、ケルン(獨)の譯。無產者用語としての細胞は共產黨組織の基礎單位である。即ち黨員五人或は十人を以つて地域的に工場的に組合的に細胞を組織し、細胞會議によつて細胞員は協議し計畫し、且つ細胞には細胞代表者があつてこれが上級機關と連絡する。細胞は一般の大衆組織の內にあつて大衆を組織しこれを鬪爭に動員する。細胞員が一定數以上になると細胞公裂が行はれて黨が大になつて行く。秘密組織の場合黨の存在が曝露されんとする時などは、その當該細胞のみで喰ひ止めて他への波及を防ぎ黨の本體を知らせまいとする。而して右翼組合內にて私かに細胞をつくり、段々細胞を大きくしていつの間にか此の組合の指導權を握つてしまふことは、右翼組合赤化の際共產黨の使用する常套手段である。

再生產
再生產は普通の生產過程のみでなくその生產物の分配と交換と消費の全過程を含みこれを繰り返すことである。

最低賃銀
それは勞資間の團体契約によつて獲得されたものを指すが普通には最低賃銀法制定によつて一定されたその立法下の一切の產業の一切の勞働者の最低賃銀率を指す。

搾取
しぼりとること。資本家が勞働者を安い賃銀で長時間働かして獨りで生產の利潤をすぼりとることをいふ。

サボタージュ(サボ)
怠業「五分間サボ」と「サボとストで職へ」

左翼
勞働運動に於ける急進派、革命派をいふ。

左翼解黨派
左翼淸算派ともいふ。解黨派の條參照。

左翼小兒病
ウルトラ・リンケン及び解黨派の條參照。

左翼社會民主主義
行動は合法主義的であるが、言辭と組織は共產主義的である社會民主主義のことである。

サラリーメン・ユニオン
俸給生活者組合

產業民主主義
產業の統制、勞働條件の決定等に勞働者が資本家と平等の發言權を有しその決定に平等の責任を有するような產業組織をいふ。

產業別組合
本編勞働組合の組織の事參照。

產業休戰
歐洲大戰に當り英國政府と勞働組合幹部の間に協定された『勞資の鬪爭を一時休む』といふ產業休戰の協定をいふ。

產業自治
產業用語としては產業に對し國家の干涉を

排斥する自由主義的立場をいふ。勞働者用語としては産業民主主義或は完全なる勞働者管理を意味する。

産業合理化
産業合理化には二つの領域がある。其の一は技術的合理化で設備の改善、整備、新技術の應用、コンヴェーヤー組織の完成等であり他は經濟的合理化即ち企業の集中及び統制、産業金融の整備等である。

産業豫備軍
マルクスによつて與へられた失業者群の名である。

三、一五事件
昭和三年三月十五日の日本共産黨一齊檢擧

三月革命
一九一七年(大正八年)三月ロシヤ帝政倒壞の革命。レーニンの共産革命の先驅をなしたもの。ロシヤ曆により二月革命ともいふ。またケレンスキー革命ともいふ。

三角同盟
一九一三年(大正二年 に英國の大英坑夫同盟(八十萬)、全國鐵道從業員組合(五十萬)、全國運輸交通勞働者同盟(二十萬)の攻守同盟であつて、勞働組合會議のルーズな團結力を補むに足らずとして、自ら關係の深き三産業別全國組合が結合して其の利益を守らんとしたのである。一九二一年四月には坑夫同盟の罷業を導火線としてあはや三角同盟の總罷業が起らんとしたが政府の斡旋で事なきを得た。

サンジカリズム
本編社會思想の推移の項參照。

(シ)

執行機關
組合、政黨等の最高機關。

執行委員
勞働運動に於ては組合より選出せられたる執行機關の構成分子執行委員會。

指令
無産運動の上級機關から出る具体的な指導方針。

資本守勢
資本攻勢を見よ。

資本攻勢
多く恐慌時に於て行はれる。即り賃銀低下、時間延長、解雇等によつて勞働者を不利に陷れ反動立法を制定して勞働運動を抑壓することをいふ。資本守勢は歐洲大戰後の好況時代に於ける如く勞働者有利の狀態をいふ。

締め出し
ロックアウトの條參照

締付工場
クローズド・ショップの條參照

社會保險
勞働者保險のこと。災害保險、健康保險、失業保險、養老保險、出産及育兒保險、死亡保險、亡夫保險等々がある。

社會主義(勞働)インターナショナル
第二インターナショナル(第二半)のこと。

社會民主主義
ソシアル・デモクラシーの譯。ロシヤ革命前、即歐洲大戰前までの社會民主主義といふ語は正統マルクス主義と同一語であつた。それには右翼と左翼とを包藏してゐた。それがロシヤ革命後右翼は議會主義、左翼は無産者獨裁主義に分れた。社會民主主義とは此の右翼のイデオロギーをいふので左翼は自ら共産主義と稱してゐる。

收奪
收奪とは私有財産の沒收(國有化、社會化)のこと。

修正派社會主義
本編社會思想推移の項參照。

止揚
アウフヘーベンの譯。本編マルクス主義唯物辨證法の項參照。

自然發生
自然發生といふ語は今日よく社會運動に用ひられてゐる。勞働者が資本家に拂取されてゐることは見まいと思つても見得ることであるから彼等は必然的に資本家に對抗する運動を起し機關をもつようになる。この機關が勞働組合である。自然發生的理論といふのはトレード・ユニオニズムを即ち勞働組合主義を指すこととなつてゐる。

宗派的
セクトの譯で私黨的といふ意味である。尙フラクションの條を見よ

消費組合
協同組合の一形態である。消費組合は消費者が組合を作り購買力を結合して卸買をなし商人の中間利得をまぬかれて生活難を緩和するのをその目的としてゐる。消費組合の經營方法は種々あるが、ロバート・オーエンによつて始められた世界最初の消費組合ロッチデールの經營法に依るものが多い。組合員となるには組合の株を少くとも一株以上を買ふこと、一人の持株最高百株のこと。拂込株には五分の利子がつくこと、株の値は上げないこと、總會には持株數の多少に關せず一人一票のこと、貨物は市場價格によること、現金取引のこと、年に二回計算し利得を購買額に比例して分配することと、非組合員と雖も組合賣店に於いて購買することが出來ること、以上の如きが一般に行はれてゐる消費組合の方法であるが此の外に市場價格よりも割引して賣るものもある。消費組合は生産組合と共に改良派社會主義の無産者解放の手段であるが左翼の勞働運動も亦消費組合を鬪爭の補助機關として重要視し之を通じて無産者を組織化することが尠くない。

小ブルジョア
プチ、ブルジョアの譯。中間階級を指す、略に「プチ、ブル」がある

小ブルジョア的イデオロギー
中間階級的觀念をいふ。即ち私有財産主義とデモクラシーの觀念。

小兒病
勞働運動用語としての小兒病とは極左翼的急進主義を指す。レーニンが『左翼共産主義の小兒病』に於いて定義したところによると、之は議會を利用すること並に右翼勞働組合に喰ひ込むことに反對する急進主義者をいふことになつてゐる。併し我國ではこ

の語が亀用され極左翼のみでなく左翼に投げ與へる罵言にも使用される。昭和五年五月前後極左潜行運動に用ひられた武裝戰術の清算的批判に、斯くの如き行動を「小兒病的」といふ語葉を以つて批評した例が見える。

職場(ショクバ)
工場の部分的作業場。

職場別組合
クラフト・ユニオンの譯。例へば造船業に於ける木工、船管工、鐵工の組合の如きである。職業組合は古い形であつて熟練といふことが勞働者に必要であつた時代、機械があまり使用されてゐない時代の組合型である。それは職業による團結によつて一は資本家に對抗し一は職業への侵入者を妨害して自らの利益を守つてゐた。現在は資本家は一産業を經營し進んでは數種の産業に亘つて統制權を握つてゐる上に機械の利用が極度に普及してゐるので職業組合によつて勞働者の利益を擁護することは殆ど不可能であるとされてゐる。

シンジケート
カルテルに同じ。

シンパサイザー
共産黨の同情者、黨員にあらずして事情了解の下に運動資金など供するもの。

『事故なし』デー
安全デーに同じ。サボタージュの一種。特に交通勞働者の使用するもの。交通業の規則が交通安全の爲營業者の採算以下にスピードを制限してゐる(實際は採算上規則以上のスピードを出させるのが常である)のにつけこみ此の規則を文字通り遵行することによつて資本家に打撃を與へサボタージュの效果を擧げる。

自由勞働者
一定の會社、工場等に雇傭されずその日その日の雇傭契約の下に放浪的勞働生活を營む不熟練習勞働者。

十月革命
一九一七年十一月七日のケレンスキー政府(社會民主主義)倒壞の革命。ロシヤ曆により十月といふ。ボルセヴイキの革命、勞働革命。共産革命を意味する。

縱斷組合
工場別組合のこと。これは他の工場勞働者との連絡なく横斷組合の如く本部の指令によつて行動しないので其の團結力は薄弱である。

上層建築
本編マルクス主義唯物史觀の項參照。

四、一六事件
昭和五年四月十六日の日本共産黨一齊檢擧

(ス)

スキヤップ
罷業破り。

ストライキ
罷業。本編勞働爭議の戰術の項參照。

ストツページ
作業停止と譯す。歐米に於てはストライキとストツページとの間の差異が認められてゐる。即ちストライキは組合と工場主との契約違反の場合に本部より罷業手當をうけて其の統制の下に行ふのであるがストツページは工場内の小問題で組合との團体協約(契約)以外のことで資本家或ひは管理人に不法行爲のあつた場合等に勞働者が一職場に於いて或は工場全体でその抗議のために組合本部の許可なしに始める短期の作業停止である。換言すれば部分的短期ストライキともいへる。

スライディング・スケール
物價の騰落によつて賃銀を變更する制度。

スウイーチング、システム
苛血搾取制度。賃銀が過少で勞働時間長く工場設備極めて不完全なる制度、又は中間請負者が工賃の開きで儲ける制度等に極めて廣義に使用される。

スローガン
宣傳等に主義綱領などを簡潔なる文句で言ひ現はせるもの。

スパイ
密偵

スポルチンテルン
一九二三年(大正十二年)に創立された國際共産黨指導下にあるスポーツ・インターナショナル。

(セ)

政治鬪爭
政治運動とも言はれる。政治鬪爭には、勞働組合運動の經濟鬪爭では得られない所のものを政治鬪爭で得るといふものと、意識的に一切をブルジョアの權力に對して動員し凡ての經濟鬪爭を政治鬪爭化するといふものとがある。前者は議會を認めて之によつて改革をなさんとする運動で普通に組合主義的政治鬪爭と呼び、後者は國家權力に變革をもたらさんとするもので社會主義的政治鬪爭と呼ばれる。

政治革命
社會革命の前提としての無産者の政權獲得

政治的罷業
勞働者が何等かの政治的乃至社會的要求を貫徹せんとする目的を以てする罷業。總罷業は政治的罷業の形をとることが多い。

生理休暇
勞働條件として月經に對する公休を要請する爲のスローガン。

清算派
此の名稱は一九〇七年(明治四十年)頃のロシヤの第一革命後(日露戰爭後に起つた革命運動。ロシヤは此の革命後議會開設を約束した)の反動時代にメンシエヴイキの一派に與へられたものである。此の一派はロシヤに於ける革命の到來は前途尙ほ遠しとして、地下的革命運動を廢し、非合法的な運動を清算して合法的に議會に於いて言論、集會、組合の自由を獲得すべしと提唱したため清算派と呼ばれ、また其の行動を清算主義といつた。

清黨
露語「チストカ」。革命後洪水のごとくロシヤ共産黨に入黨せる志操堅固ならざる不良分子、一夜づけ黨員、いはゆる「紙製共産黨員」を淸掃するため、一九一九年(大正

八年）の夏、全國の黨機關に亙り第一回の清黨が行はれ、更に一九二一年（大正十一年）新經濟政策の施行後にも行はれた。一九二七年（昭和二年）の大會に於ける反對派除名も特殊の清黨運動と見られる。我國の無產運動に於ては、此の語は非常に廣義に用ひられ、共產黨に限らず一般無產政黨に於ても反對派一掃運動の場合屢々使用せられる。

赤旗
社會主義勞働運動の旗。日本共產黨の機關誌には『赤旗』といふ名が附せられてゐた。

戰旗
日本で發行された極左系の雜誌の名。最近其の發行が禁止された。之は巧妙なる配布網（讀者リスト）を作つて檢閲を潜つてゐた。戰旗は共產主義宣傳の最傳の最初の手引として利用さるることが多かつた。

赤色勞働組合
共產系の極左勞働組合のこと。

赤色インターナショナル
第三インターナショナルのこと。

赤色テロ
赤色テロリズムの略　左翼の暴力を手段とする運動方法。

赤色自衛團
白色テロに對抗するために發達したもの。

赤色スポーツ
極左的階級的意識を更に濃する一手段としてスポーツを利用する事

セツツルメント
隣保事業と譯する。勞働者街に建物を造り勞働學校、食堂、圖書館、宿泊所等を設置し學者や學生や社會事業家が附近の勞働者の知識の向上を計ると共に勞働狀態の調査をする等の社會事業をセツツルメントといふ。

セミ、プロレタリア
半プロレタリアのこと。階級意識低く、小ブルジョア的な貧農其の他の無產階級をさす。

センセーション
人氣、衝動等と譯す。

ゼネラルストライキ（ゼネスト）
總罷業のこと。

前衛
無產者運動の指導分子、指導團体、指導勞力等本隊或は一般大衆に對して用ひる。

（ソ）

ソヴイエット
ソヴイエットとは露西亞語の「委員會」或は「評議會」といふ語である。ソヴイエットは最初ストライキ委員會として現はれ後武裝的革命を指導する革命委員會となつた。一九一七年十一月勞農革命が成就して以來此のソビエットは全國的に組織化された。即ちソヴイエットは選擧によつて露西亞の村に町に省郡に都市に組織され其の地方の議會と行政との兩權を兼ねた決議と執行との機關となつてゐる。之等の地方ソヴイエットは更に上級ソヴイエットに代表を送つて全國ソヴイエット大會を構成する。全國ソヴイエット大會は當該國の最高機關である。更らにその上に全聯邦ソヴイエット大會がある。全聯邦ソヴイエット大會が全聯邦の最高機關である。

倉庫
極左運動では機密の文書を全く事情を知らない人に預けて當局の嚴しい捜査を晦ます手段とするはの主として技術部の役目であるが、その保管してゐる人や場所に倉庫の隱語を用ひた事がある。

（タ）

太平洋勞働者
昭和四年八月、ウラジオストックで開かれた第二回太平洋勞働組合會議の決議によつて、昭和五年一月から發刊された太平洋勞働組合書記局の日本語機關誌である。これは太平洋沿岸諸國の革命的勞働組合代表者の參加の下に編輯され、共產主義の宣傳に利用されてゐる。編輯部及び印刷所は現在上海に置いてある。略稱は「太勞」である。

太平洋勞働組合書記局
太平洋沿岸諸國の革命的勞働組合運動の統一强化を圖らんとするもの。目下全國は之との緊密な連絡をつけんことを高調してゐる。

タクチック
戰術と譯す。

タラヒ廻し
警察が左翼運動者等を檢擧した時警察犯處罰令によつて廿九日以下の拘留に處し更に之を繼續し繰り返へすために他の警察に連行して再び拘留に處することがあるが、此の警察から他の警察に廻はされることをタラヒ廻しといふ

ダラ幹
我國の無產政黨乃至勞働組合運動の右翼指導者に對する左翼よりの罵言

大右翼結成
勞働總同盟を中心に海員組合、官業勞働總同盟などの改良主義組合を結成し、赤色勞働組合派に對抗せんとする運動。

第一インターナショナル
本編參照

第二インターナショナル
本編參照

第二半インターナショナル
本編參照

第三インターナショナル
本編參照

第四インターナショナル
サンジカリスト・インターナショナルのこと。サンジカリスト・インターナショナルに就ては本編參照

第一階級
第一は國王

第二階級
第二は貴族、僧侶

第三階級
第三はブルジョア

第四階級
第四はプロレタリヤ

團体協約
コレクチブ・バーゲインの譯。勞働者と資本家と一人々々で雇傭契約を結ぶのは勞働者の方が經濟的に不利であるといふこと

が分ったので、近時大集に勞働者が組織された團体として資本家と履行契約を結ぶようになつた。之を團体協約といふ。即ち資本家或ひは資本家團体と勞働組合とが統結的に勞働條件を協約して、其の範圍内に於て所屬組合員は個々の契約を結ぶのである。我國でも鐵同盟系の組合とその締付工場の資本家との間に團体協約を締結したものがある。又勞働協約ともいはれる。

團体交渉

勞働組合と資本家との間に勞働條件其の他を團体的に交渉すること。其の權利を團体交渉權といふ。此の權利を認めることは從來事實上の存在に過ぎなかつた組合を企業内に於ける公然の存在として承認したと同一の意義を有してゐる。

第二無産者新聞

日本共産黨の機關新聞。三、一五事件によつて無産者新聞の發行が禁止されて以來、之に代るべき共産手義宣傳の手引として發行されてゐたが、其の後又々發行が禁止された。併し今尙發行所を移動せしめて警察の取締を脱れ、秘密出版をして配布宣傳を續けてゐる。昭和六年三月五日には第四十九號が出てゐる尙第二無新は發行禁止になつた後引續いて秘密出版をしてゐたが第七號を出版した時、發行所が一斉檢擧に遭つたので、第八號は「極東社會運動」といふ名で發行された。發行名義人鶴永夢功となつてゐるが勿論架空のものである。無新の條を見よ

タッス通信社

ソビエット聯邦國營の國際的通信機關。ソビエット聯邦は産業、政治、勞働、軍事、思想、外交等のニュース、通信等を統一して、政府直屬の事業としてゐる。各國に支局を設け、東京にも支局がある。一九二五年までは「ロスタ」と呼んだが、全聯邦と改稱して「タッス」と改めた。

タワリッシ

ロシヤ語で同志

(チ)

地下運動

秘密運動のこと。潛行運動。地下にもぐるなど言ふ

地區委員會

共産系組合は一定の地域の各工場分會等の活動を敏活ならしめ、且つ本部（全國的組織では地方支部）の統制を充分ならしめるために組織する地域的行動委員會のこと。委員會は本部（又は支部）のオルガナイザーと分會の責任者とを以つて構成し、オルガナイザーの統制の下にあるのが普通で、之は從來の右翼組合の地方分權的な地域支部と異つてゐる。

チエッカ

ロシヤの初期反革命防壓の高等警察部であつたが、今は廢止せられてゲー・ペー・ウーとなつてゐる。

中間派

無産運動に於ける左右兩翼の中間的地位にゐるもの。日本では全國大衆黨及その系統の組合に對して使用せられる

直接行動

この語は佛國のサンジカリストから起つたものである。サンジカリストは議會を通じての勞働者解放運動即ち政治行動を間接行動として排斥し、職場、工場、市場に於ける鬪爭、即ちストライキ、サボタージュ、ボイコット等の産業行動を直接行動と稱して、之を採用した。我國に於いては、俗用されて工場破壞、個人暴行をも直接行動と呼んでゐる。

貯水池

共産黨の影響の下にある團体で有力なる闘士を供給するものを黨の貯水池と稱してゐる。共産青年同盟の如きこれである。

(テ)

帝國主義

本綱産業組織の發達の項參照

テーゼ

獨逸語であつて方針、提要、要預書と譯される。無産者團体の部分的運動に關する方針の綱領書である。綱領は團体的運動の規範で、テーゼはその部分的運動に對する規範である。例へば經濟運動のテーゼ、教育部テーゼの如きである。

テロ

テロリズムの略、恐怖主義、暴力主義と譯す。個人或は小數の秘密集團によつて、政府の大臣や抑壓者の暗殺、爆發等の强暴手段によつて社會革命の遂行に展開せしめんとする主義である。

テロル

テロのこと。

轉化

一定の新たなる段階、形式、又は狀態に到達する過程を轉化といふ。

デマゴク（デマ）

デマゴグは煽動政治家、惡煽動家。資本家が勞働運動の指導者を罵つてデマゴクと呼ぶことがある。デマゴギは惡煽動の意であるが、尙略して『デマを飛ばす』等と使用せられる。

デモンストレーション（デモ）

示威運動。政治問題、社會問題、勞働問題等に關する意見又は要求に同意を表し又は之を支持すべき意思を發表せんが爲め多數の人々の集合して會合又は行列を擧行することを示威運動といふ

デモクラシー

民主々義、民主政治また屢々通俗的に民本主義と譯される。デモクラシーはアリストクラシー（貴族政治）に對する。アメリカではデモクラシーを定義して「人民のための人民による人民の政治」などといつてゐる。デモクラシーは代議政治、普通選擧、言論集會、結社出版、信仰の自由、公判制度等を具体的内容としてゐる。

傳單（ビラ）

封筒位の大きさのビラへ鬪爭スローガンを書きつけて帖りめぐらすもの。

(ト)

逃避

勞働運動に參加してゐたものが思想に變化を來して止めてしまふこと。

讀書會

極左運動に於て大衆の階級意識の目を開き

又は之を强める爲に共產主義的文獻、機關紙、雜誌等の教材として研究會を開くこと。

トラスト

主として北米合衆國に發達した企業合同である。トラストはシンジケート又はカルテル(企業聯合)より尙一歩を進めたものである。シンジケート又はカルテルの場合には加盟會社は生產額、價格、販賣地域、注文の分配等を協定し中央事務所を置いて統御される。中央事務所は共同事務の執行機關で、加盟會社の開閉を命ずる程の指揮權を有しない。加盟會社は各々尙獨立性を有してゐる。トラストになると企業よりもむしろ資本を合同するので、その中央本部は加盟會社に對し營業政策上開閉を命ずる權利をもつてゐる。但しこの閉鎖會社の資本家もトラストの一員として其の配當を受けることとなつてゐる。

同情罷業

資本系統、產業的性質又は地域等を同一にする勞働團体がその立場を利用して友誼團体の爭議を有利に解決せしめんがためにするストライキ。

トレード・ユニオニズム

勞働組合主義の項參照

(ナ)

ナップ

ニホン・アーチスト・プロレタリヤ・ツエデレーション(全日本無產者藝術團体協議會)の頭字をとつてNAPF(ナップ)といつてゐる。昭和二年十二月成立した共產系の藝術家同盟であつて、プロタリヤ藝術の確立を期し、藝術を武器として無產階級解放運動の一翼を形成せんとしてゐる。現在協議會を構成せる團体は次の通りである。、日本プロレタリヤ美術家同盟(略稱P、P、)、日本プロレタリヤ劇場同盟(略稱プロット)、日本プロレタリヤ作家同盟、日本プロレタリヤ映畫同盟、(プロキノ)日本プロレタリヤ音樂家同盟。

ナロードニキ

民衆黨と譯する。ナロードニキの運動とは「プ、ナロード(民衆の中へ)」を標語として

ロシヤのインテリゲンチヤによつて起された社會革命の運動である。ナロードニキは一九一七年三月革命によつて一時政權を握つたが、十一月の勞農革命に當つてはボルセヴイキと對立して所謂反革命的役割を演じた。

ナルコム

ロシヤの人民委員のこと。

(ニ)

日常鬪爭

無產階級の生活と直接關係ある鬪爭、勞働者農民の資本家地主に對する鬪爭、經濟鬪爭を見よ。

ニヒリズム

虛無主義。

ニヒリスト

虛無主義者

日本プロ、エス、

日本プロレタリア・エスペランテイスト同盟の略稱で、昭和六年一月十八日結成された極左派の團体である。日本プロ・エスはエスペラント(國々により國語の異る不便を避けんとして、作り出された世界共通の國際語)を勞働者、農民の間に宣傳、普及し亦自ら實用することによつて、エスペラントを無產階級の國際的團結の武器たらしめることを其の目的としてゐる。

日本共產青年同盟

大正十二年創立せられたと自稱してゐる。關東大震災に於ける青年鬪士壞滅の爲、一時活動を中止したが、大正十五年八月一日日本無產青年同盟の成立するや、青年共產主者はこの合法的結社の內部に潛在し、昭和二年頃日本共產黨の確立と共に本同盟の組織に着手し、昭和二年八月關西地方委員會、同年十二月關東地方委員會が確立した。昭和三年三、一五事件で本同盟の組織が判明して、その構成分子が檢擧せられると共に、同年四月その母胎たる日本青年同盟は結社を禁止せられ、爾來潛行運動に入つてゐる。黨の鬪士の供給所として「貯水池」の稱がある。また「こども」といふ隱語が用ひられてゐる。

ニユース

ニユースと機關誌とは區別しなければならぬ。ニユースは機關誌の樣に一般的問題を取扱ふ大裝裝たものではなく、あらゆる組織單位が狀勢の報告や、相互の連絡や、煽動宣傳のために發行する通信若くは新聞のことである。例へば職場ニユース、組合ニユース、爭議ニユースの如し。非合法運動に於ては職場毎に「救援ニユース」又は「反帝ニユース」等を發行する。之は救援運動又は反帝運動の總括的機關誌である「救援新聞」、「反帝新聞」と區別すべきである。

(ネ)

ネツプ

ロシヤの新經濟政策のこと。ロシヤのソヴイエット政府は革命後暫くは反革命軍と對抗の必要等の爲、農產物を徵發する戰時共產主義を施行してゐたが、戰時狀態の終息と共に社會主義的經濟に推移すると稱して一九二一年(大正十一年)新經濟政策を發表した。

(1)農民よりの穀物徵發を廢止し、それに代る一定の現物稅を課し、殘余は市場に於いて自由に賣買が出來ることとなつた。從つて小規模な自由商業が出現した。(2)ロシヤの資源を開發し、急速な大工業化を行ふ爲めに外國の資本家に、一定の資源及事業の租借を許し、或は合併事業を行ふことになつた。(3)國有工業の一部を團体或は私人に貸下げることになつた。以上が新經濟政策の大要である。この爲、それまでの勞働組合にはストライキ權が與へられなかつたが、私人企業に關する限りそれが認められるようになつた。

ネツプマン

新經濟政策の採用後生じた私人利潤を目的とする商人のこと。一般の用語としては勞働せずに食つてゐるもの。

(ハ)

バイ

スパイの略語。密偵

白色

非民主的、反勞働的な、反動的運動、團体、

個人を指す象徴である。

白色勞働組合
伊太利のカソリック教徒の勞働組合

白色テロ
反動的恐怖主義、テロリズム參照

バクロ
階級闘爭の一手段である。要するに、曝露は個々の現象を捉へて、之から資本主義の全機構及び本質を大衆の前にさらけ出し、今何が企てられつつあり、それに對してどう闘ふべきかを事實を以て示し、闘爭心を煽動するものである。

反帝運動
支部の國民黨の帝國主義諸國に對抗する運動を指すが、我國の勞働運動に用ひられるときは昭和四年八月、ロシヤの反帝國主義民族獨立支持同盟の日本支部として成立した共產系の戰爭反對同盟の運動を指すことがある。此の日本反帝同盟（略稱）はスローガンとして帝國主義戰爭反對と勞働ロシヤを守れの主張をなし、「反帝ニュース」を刊行して相互の聯絡に資すると共に宣傳煽動の具に供してゐる。運動と從事してゐるものは共產黨の指導下にある極左學生分子と見られてゐるが、本部の所在は明かにされてゐない。

反帝新聞
「反帝ニュース」。日本反帝同盟の發行する新聞。

反動主義
力を以て社會制度並に組織の現狀維持を主張せんとする保守主義の極端なもの

バンフレット
小冊子、薄い本。

パルチザン
遊擊隊

ハンガー・ストライキ
ハン・ストと略す。共產主義者が獄中等で絶食を以てする對抗手段。

(ヒ)

罷業權
罷業は國家が認むると否とに拘らず行はれるが、罷業權といふ時は、國家が罷業を合法的に認め、消極的に罷業行爲を妨害せざるのみならず積極的に罷業行爲を原因とする損害賠償の免除等を內容としてゐる。

罷業投票
ストライキを始むべきか否かを決する組合員の投票。

罷業基金
本綱勞働爭議の戰術の項參照

罷業保險
種々の意味に使用される。其の一つは資本家が罷業の損害を共同負擔にせんとして一定の金を積立てておく一種の損害保險。其の二は資本家が勞働爭議の場合ダラ幹を買收せんとして積立てておく金。其の三は組合の聯合本部が所屬組合の積立金を保證してゐて、罷業の場合之を援助するもの。

罷業手當
勞働者が罷業中組合よりうくる生活費。

罷業委員會
罷業を指導する一時的機關。

罷業代理
地方の組合に罷業が起つた場合、闘爭を指導と交渉との爲め、本部より派遣せらるる本部代表者。

罷業破り
英國ではブラックレッグ、米國ではスキャップと呼ふ。罷業の時に資本家に雇はれる臨時者、及そうした行爲を罷業破りといふ。罷業勞働者の中から蹶返りをして出勤したものは裏切りと呼ばれる。

非合法運動
非合法運動とは治安警察法により結社として認められない團体の運動をいふのであるが、近時之等の秘密結社、殊に共產系のビラ張り、傳單秘密會等の個々の行動をさすのに用ひられる傾向がある。

非買同盟
ボイコットを見よ。

非賣同盟
ボイコットを見よ。

日和見主義
御都合主義、改良派社會主義を罵つていふときに用ひられる。

ピオネール
赤色少年團のこと。勞農少年團ともいふロシヤでは革命後一九二二年（大正十二年）共產黨及共產青年同盟の指導の下に、八才から十七才までの男女少年を組織し、これをピオネールと呼び、農校又は國家に附屬して共產主義的教育を施してゐる。ロシヤでは創立當時約一万人のピオネールを組織したが、現在では百五六万に達したといはれてゐる。又ドイツ、フランス其の他共產黨の在する國にピオネールが組織され、從來の少年團に對抗してゐる。日本でも東京、埼玉、山梨等の農民組合の中には勞農少年團又は勞農少年部としてピオネールの組織が結成せられつつある。

ピクニック
野外遠足。左翼運動に於て用ひらるる戰術の一である。即ち野外遠足を試み、之を機會として、頗見知りとなり次第に交際を初めて種々主義の宣傳をなし、遂に相手をを赤化してしまふのである。

ピケッティング（略ピケ）
監視或ひは見張り。罷業の時罷業破りの出勤を妨げることを目的として工場附近に立番をすること。

ピケット
見張り人

ピュウロウ
第一次共產黨事件（大正十二年六月）の檢擧並に震災の結果闘士を失つため黨を一時解散して殘務整理並に共產黨運動助成の機關を置き「ピュウロウ」と稱した此の後もこうした場合に使用せられると思はれる。言葉である。

ビラ
運動の一法方として檄文のものを記した紙片を貼附したり撒布したりする。「ビラハリ」「ビラマキ」。

(フ)

ファシスチ
とは伊太利に於いて一九一八年（大正七年）の休戰後の政治及び產業の革命的狀態の反動として生れた反動的政黨である。ファシスチは一九二〇年までは一二の町に支部を

有した、とるにたらない國家主義の小團體であつたが、今や全國の各町村都市に支部を有する全國組織となり、伊太利政界の獨裁政黨となつた。ファシチは軍隊式に編成され、黨員は、地方司令官に軍隊的服從をなし、地方司令官は總司令官ムッソリニに責任を有してゐる。ファシスチの目的は、一切の革命的傾同のある團體と、指導者と團體員とを消滅せしむるにある。ために現在の伊太利では勞働運動も社會主義運動も殆ど不可能になつてゐる。勞働組合はファシストの組合に限り認められてゐるが罷業權はない。

ファシスト
ファシスチの黨員

ファシズム
ファシスチのイデオロギー

フェミニズム
女權主義と譯す。男女同一勞働同一賃銀、婦人參政權、婦人賣買禁止等の主張を其の內容とする。

フェミニスト
女權主義者

フェビアン主義
本編參照。

フェビアン協會
本編參照。

ブタバコ
豚箱、警察の留置場の異名

不拂勞働
剩餘勞働、剩餘價値のこと。本編マルクス主義の項參照。

フラクション
分派と譯す。一つの團體內の左翼分子が、團體の左翼化のために、團體內に左翼のみの連絡機關をつくつて運動するとき、この機關をフラクションと呼ぶ。此の運動形式をフラクション運動といふ。フラクションとよく混同されるのにセクトといふ語がある。これは徒黨、私黨、朋黨、宗派などと譯されて、大低惡い意味の多くの私的の黨中黨である。フラクションは理論と政策で集まり、セクトは宗派精神と利益で集る。

ブール
生產制限を目的とする同業組合の一種である。カルテル、シンジケート、トラスト等の初期的なものと見ることが出來る。

ブチ、ブルジョア（略ブチブル）
小ブルジョアのこと。

ブラットホーム
綱領の外に團體の掲ぐる政策もしくは政綱のこと。

ブレシドユーム
ロシヤの全國ソヴイエット大會中央執行委員會の常任執行機關をいふ。

ブレブス・リーグ
英國に於けるマルクス主義を奉ずるラスキン大學の學生、校友等の組織する勞働者教育團體で、平民聯盟と譯す。

プロパカンタ（略プロ）
宣傳と譯す。

プログラム
綱領と譯す。

プロテスト
抗議と譯す。

プロット

ナップを構成する日本プロレタリヤ劇場同盟のこと。ナップ參照

プロ・ニユース
無產者新聞、及び第二無產者新聞の略稱。

プロフインテルン
ロシヤのモスコーにある赤色勞働組合インターナショナルのこと。本編國際勞働運動の項參照。

プロレタリアート（プロレタリア）
プロレタリアは無產者、プロレタリアートは無產階級のこと。

プロレトカルト（プロカルト）
無產者教育といふ、英語でプロレタリアン、カルチユアの縮語である。

プレナム
コミンテルンの中央委員會

プカプ
ロシヤ語で全聯邦共產黨の略稱。

ブラツクコート
洋服勞働者と譯す。英國勞働運動界で主として用ひられてゐるもので、我國の下級サラリーマン（俸給生活者）に當る

ブラツクリスト
黑表、注意人物の名簿

ブラツクレツグ
罷業破り。

ブルジョア
佛語である。語そのものは都市の自由市民（商工市民、町人）を指してゐる。佛蘭西革命當時は第一（國王）、第二（貴族、僧侶）階級と、第三（市民）、第四（勞働者階級）とが對立してゐた。此の第三の中流階級がブルジョアと呼ばれ、第四の下層階級がプロレタリヤといはれた。然るに產業革命後（本編參照）、ブルジョアに富が集中し、之が社會の權力を握るようになつた爲ブルジョアとプロレタリヤとの對立を生ずる樣になつた。ブルジョアジーといふのはプロレタリアートに對し資本家階級と譯す。

分裂政策
右翼幹部の左翼との分離主義をいふ。

プロポリカルト
プロレタリアン・ポリチカル・カルチユアの縮語で無產者政治教育のこと。

ブラウダ
ロシヤ語で眞理、正義等の意味をもつ。ロシヤの全聯邦共產黨の機關新聞の名である。

ブロツク
同盟、提携又は大同團結と譯される。

（へ）

閉鎖工場
工場閉鎖とは異る。クローズド・ショップを見よ。

閉鎖組合
クローズド・ユニオンを見よ。

ヘゲモニー
指導權、覇權等と譯される。無產運動に於しある團體が他の團體の指對的立場に立つ時「ヘゲモニーを握る」といふ風に用ひられる。

辨證法
本編マルクス主義の項參照

辨證法的唯物論、又唯物辨證法
唯物辨證法に同じ、本編參照

變名
樋口運動にはその手段として變名を用ふる事がある「小泉保太郎事三田村四郎」

ペンネーム
文筆上の假名、非合法運動上の假名にも用ふる。

(ホ)

方向轉換
自然發生的運動、即ち資本家に對する勞働組合運動から、目的意識的運動、即ち社會主義運動への轉換をいふ。換言すれば經濟鬪爭より政治鬪爭への移行。大正十四年前移る山川均「方向轉換論」がある

ポスター
繪ビラ廣告のこと

ボリト、ビユーロー
ロシヤ共産黨の政治部の略稱、オルグ・ビユーローは同黨の組織部

沒落資本主義
資本主義の第三期、獨占資本主義のこと。

ボイコツト
一八七九年アイルランドのジエームス、ボイコットなる人が屢惨せる勞働者を虐待した結果、勞働者は同盟して從業を拒絶して以來、ボイコットなる語は絶否同盟運動といふ意味に使用されるやうになつた。通常資本家に對する抗議として、其の生産する商品の購買を拒絶する場合に多く使用されるので不買同盟とも譯されてゐる。ボイコツトは實際には更に廣義に用ひられて、同盟した絶交、關係杜絶、排斥にも用ひられてゐる。

ボルシエヴイキ
一八八三年(明治十六年)に組織されたロシヤの社會民主黨が一九〇三年(明治卅六年)の大會で分裂した時は、あくまでも穩健なる社として活動せんとした左翼分子が大多數を占めて居つた。以後彼等は多數派(ボルシエヴイキ)として、いつも穩健なる少數派(メンシエヴイキ)と別個の行動をとつて居つた。一九一七年(大正六年)、この多數派社會民主黨はケレンスキーの假政府を倒して、所謂十月革命を完成し、改名してロシヤ共産黨と稱した。而して從來の第二インターナショナルに反對して第三インターナショナルを組織し、世界革命運動を指導することとなつた。

ボルシエヴイズム
ボルシエヴイズムとはロシヤ革命の兇暴慘虐なる狀態を總稱する言葉として初めて使用されたものであるが、今日では第三インターナショナルの主義政綱乃至實際運動を意味する言葉となつてゐる。ボルシエヴイスト、即ちボルシエヴイズムを信奉するものは、共産黨宣言に所謂階級鬪爭と無産者革命による資本主義の倒壞、及び資本主義社會から共産主義社會に到る過渡期に於けるソヴイエットによる無産者獨裁制度の確立を信じ、之を實行せんとするものである。ボルシエヴイズムはあくまで國際運動であつて世界革命を期してゐる。ボルシエヴイズムは又新マルクス主義とも呼ばれてゐる。今日實際運動上に於いて共産主義といふのはボルシエヴイズムと同義である。

ボル

ボルセヴイズムの略

ポス
幹事、親方、ダラ幹の項參照

(マ)

マツス
大衆と譯す。

マツス・ストライキ
總罷業のこと。

マルキシスト
マルクス主義者。

マルキシズム
マルクス主義。本編參照

マルクスデー
五月五日。一八一八年(文政元年)カール・ハインリツヒ・マルクスの生れた日

マンモニズム
拜金主義、金力萬能主義。

マルクス・ボーイ
カフエー・マルキシストを見よ。

(ミ)

未組織勞働者
勞働組合は無産政黨に入つてゐない勞働者

未組織大衆
勞働組合又は無産政黨に入つてゐない勞働大衆。

未組織工場
勞働組合の組織せられたもののない工場

見張リ
ピケツチングの譯。

(ム)

無産階級
プロレタリヤの譯、嚴密にいへば近代的勞働階級、即ち、工場勞働者を意味する。併し普通には財産なくして精神的若くは關係的勞働に從事するものを總稱する。この場合には勞働者階級階級(都市勞働者、工場勞働者)、農民階級(小自作農、自作兼小作農、小作農)、勤勞階級(家内勞働者、傭給生者)を含んでゐる。殊に勞働者、農民の兩階級を無産階級と呼ぶことが最も多い。

無産階級獨裁
プロレタリヤの政權獲得。本編レーニン主義參照。

無政府主義
本編參照。

無政府共産主義
本編參照、尙共産主義を見よ。

無産者新聞(略稱無新、又はP・N)
大正十四年九月、佐野學其の他の極左分子によつて發行せられ、三・一五事件の後に於ても、共産黨スローガンの趣旨を大衆に徹底せしむる爲に、共産黨の機關紙として活動し、黨の再組織及擴大强化に努めてゐたが昭和三年發賣禁止となり昭和四年其の發行が禁止された。かくて第一次無新は消滅したわけであるが、一味は私かに第二無新の計劃を進め、昭和四年九月創刊號を發行した。爾來續刊してゐたが、十月、無産新聞社の幹部に對し一齊檢擧が行はれた爲に、一時休刊の止むなきに至つた。併し共産黨は黨の大衆化の爲に、無新を放任すべから

メジユラムプコム
ロシヤのモスコーにある國際勞働者救援會

メムバア
黨員、組合員、結社の構成分子

(モ)

モスコー・インターナショナル
第三インターナショナルのこと。赤色インターナショナル、又は共產インターナショナルとも呼ばれる。

モツブ
暴民、

モツブル
ロシヤのモスコーにある第三インターナショナルの世界革命運動の一翼である在露革命闘士國際援助協會(メジドウナロウド・ナヤ・オリカニザーチーヤ・ボーモンシチイ・ボルサーム・レボリユウツイー)の頭字をとりて簡單モツブルといふ。世界革命犠牲者救援會のこと。我國にもモツブルの日本支部が結成されてゐることは、解放運動犠牲者救援會の項で述べた通りである。

桃色インターナショナル
第二インターナショナルのこと。

(ヤ)

ヤチエーカ
細胞といふロシヤ語。

闘の金曜日
一九二一年(大正十一年)四月十五日(金曜)英國の社會が一大脅威を受けんとした三角同盟の罷業が取消された日。此の日を世界勞働者の悲憤の日といふ意味で闘の金曜日と稱せられてゐる。

(ユ)

ユー・エス・エス・エル・(U・S・S・R)
社會主義ソヴイエット共和國聯盟(ユニオン・オブ・ソーシヤリスト・ソヴイエット・レパブリック)の略稱で、全勞農ロシヤの正式な呼び方である。此の聯盟はロシヤ聯邦と白露、ウクライナ、トランス・コーカシアン、ウズベグ、ツルコマンの五聯邦との同盟したものである。

ユース
日本共產青年同盟の略稱。

唯物論
本編マルクス主者の項參照。

唯心論
本編マルクス主者の項參照。

唯物史觀
本編參照。

唯物辨證法
本編參照。

ユートピヤ
理想郷

揚棄
アウフヘーベンのこと。ヘーゲル辨證法の觀念發展の過程。
本編參照。

四十時間制
一週八時間宛五日働き、土曜と日曜と全休せんとするもので、オーストラリヤに盛んに行はれつつある運動である。

四十四時間制
一週に八時間宛五日働らき、土曜を四時間にして半休、日曜を全休せんとする要求、オーストラリヤにて實施されてゐる。

四十八時間制
これは八時間制に隨伴して要求されるもので、一週の勞働時間を四十八時間に限いんとするものである。即ち八時間宛六日勞働し、日曜を公休(賃錢を受けて休む)せんとするものである。此の制度は多くの國で實施されてゐる。

(ラ)

ラディカル(ラディカリスト)
急進主義者

ランク・アンド・フアイル
譯せば兵卒。軍隊の士官に對して兵卒、勞働運動に於ては幹部に對して一般會員、政黨ならば平黨員、組合ならば平組合員。

すとして、復々社員の未檢擧者を動員して再刊を企て、種々題號を變更したりなどして、發行を續けてゐる。併し發行所や印刷所は秘密とされてゐるので明らかでない。

無產青年新聞(無青、又はY、N)
日本共產青年同盟の發行するもので、無產青年を赤化せんとする共產黨の機關紙である。昭和四年八月以來、秘密出版をつづけてゐる、編輯兼發行名儀人平野榮次とあり昭和六年三月八日第五十二號を發行してゐる。

(メ)

メーデー
五月一日。それは勞働者の國際的協力を表示し且つ階級的團結を强固にするための、國際的な示威運動デーである。國際勞働デーともいはれ、その起原は一八八九年(明治二二年)に遡る。一八八九年の第二インターナショナルの巴里大會に於いて、フランス代表により「一定の日に於いて世界の勞働者が各々の政府より八時間勞働制を獲得するために、一般的且つ國際的に意志表示をなすべきこと」と言ふ決議案が提出された。そして其の日は五月一日と決定された。その理由は一八八六年(明治十九年)以來、アメリカの勞働者が八時間勞働制の獲得の爲めに、毎年五月一日に總罷業を行つて示威運動を擧行してゐたからである。かくして國際的メーデーは一八九〇年(明治廿三年)五月一日より行はれた。一八九一年のブラッセル大會に於いて、メーデーは單に八時間勞働の要求のみではなく、勞働者が休業し、階級意識と其の解放の決意を固める日であると決議された。歐洲戰爭中一時中絶したが、戰後再び復活した。我國に於いては大正九年から始まり、年々參加勞働者の數を增加してゐる。メーデーは勞働祭又は勞働デーともいはれる。

メッセージ
挨拶書、宣言。

メンシエヴイキ
ボルシエヴイキを見よ。

(リ)

リーダー
指導者。

リーフレット
ビラといふ英語、一枚ものの宣傳用文書。

理論闘爭
理論闘爭とは勞働階級の意識を高めるため、一切の思想、一切の運動に對して批判的檢討を行ふ闘爭をいふ。理論闘爭は政治闘爭經濟闘爭と共に無產階級の行ふ三つの闘爭形態である。

綠色インターナショナル
ブルガリヤの農民同盟の主領にして世界最初の農民黨政府の首相アレキサンダー・スタンブリスキーの指導するチエツコスロバキヤ、ユーゴースラブ、ポランド、ブルガリヤ等のスラブ系農業國の農民組合農民黨によつて組織されてゐる。その目的は農民からブルジョアの勢力と勞働者(共產主義者)の勢力を驅逐して、中小農民の手に政權を獲得せんとするにある。之に對してロシヤのモスコーには赤色農民インターナショナルが結成されてゐる。

リンチ
私刑と譯する

(ル)

ルーズ
ゆるやかといふ英語、だらしないことを罵る言葉としても用ひられることがある。

ルンペン・インテリゲンチュア
浮浪知識階級と譯す。下級俸給生活者は經濟的とは何等一般のプロレタリヤと異るところはないが、その生活環境から觀念的にはブルジョア的であるために、屢々組織勞働者から洋服細民又はルンペン・イテリゲンチュアと罵られる。

ルンペン・プロレタリア
浮浪無產階級、浮動勞働者、裏街プロレタリアと譯す。甚だしき貧乏のために勞働の技術と意志とを失つた人々の群である。

(レ)

レーニズム
レーニン主義と譯す。本編參照。

レーニン・デー
一月二十一日、ニコライ・レーニンは一九二四年一月廿一日、モスコーの郊外ゴルキー村にて死す。

レーニン研究所
共產主義に關する高級理論の研究所にして我が國の黨員にして同所に學び歸朝後有力なる幹部となれるもの甚だ多し。

レーゾン・デートル
存在の理由と譯す(佛語)。

歷史的使命
マルクスの唯物史觀から出た言葉で、勞働階級が資本主義に對する闘爭の使命をいふ。

レフト
左翼のこと。

レフエレンダム
一般投票又は國民投票と譯す。勞働用語としては歐米の勞働組合乃至無產政黨に於いて重要問題を會員全部の一般的投票に問ふのを云ふ。

レポート
情報或ひは通信のこと。

レポーター(略レポ)
情報者のこと。

(ロ)

勞新
全協(日本勞働組合全國協議會)の機關誌である「勞働新聞」の略稱。

勞働條件
二つの意味がある。(1)勞働者と資本家との履行條件例へば時間、賃銀等を指す。(3)勞働者の社會に生活して行く上の生活條件を指す。生活條件は履行條件より更に廣い。

勞働立法
本編參照。

勞働豫備軍
產業豫備軍を見よ。

勞働保險
社會保險を見よ。

勞働銀行
米國の勞働總同盟、殊に之が加盟團体である鐵道從業員組合の主唱によつて作られた一種の信用組合である。これは組合員を株主として銀行を作り、銀行は組合員の共濟組合をなすと共に組合、組合員のみならず更に進んでは資本家にまでも貸しつけてゐる。かくて得た利潤は組合員に分配する。

勞働組合
トレード・ユニオンの譯、本編參照。

勞働組合法
本編參照。

勞働組合主義
トレード・ユニオニズムの譯。勞働組合主義はフエビアン主義を基調としてゐる。それに勞働組合を無產階級の闘爭の最大武器とし、それを擴大し充實することが無產階級の勝利を齎らすものであるとの主張である從つてそれ等の運動はよし政治運動に出る時でも、あくまで議會主義に據らんとし、組合運動で得られないところを政治運動で得んとするのである。尙本編參照。

勞働攻勢
資本攻勢を見よ。

勞働守勢
資本攻勢を見よ。

勞働官僚
組合官僚のこと。

勞働學校
勞働者教育を行ふ學校、勞働教育とは社會主義的な階級教育である

勞働全收權
勞働者はその勞働の全成果を享有する權利を有するといふ說。

勞働權
私有財產權を基調とする現社會に於いて、無產者は勞働を以つて唯一の生活手段とする以上、制度上からも當然勞働權を有すべきものである。勞働權といふのは單に勞働する自由といふことではなく、仕事口のない時、即ち失業のときには、勞働する場合と同一の生活費を與へよといふ要求である。

勞働ブローカー
ブローカーとは仲立人、仲買人と云ふ意味で、勞働ブローカーは勞働者と資本家との間に立つて、勞働者の利害問題を資本家に

賣りつけて私利を図るもの。右翼組合幹部、ダラ幹の別名。

勞働者副官

勞働者代理人を見よ。

勞働者代理人

勞働階級の間に放たれたる資本家の代理人の意。勞働者副官ともいはれる。急進的勞働運動者が妥協的勞働幹部を罵る場合に用ひる。

勞働者管理

色々の意味に用ひられる(1)は工場委員會制度のこと、(2)は履行並に勞働條件の決定を勞働者に管理せしむること、(3)は勞働者に販賣組織を行はしむること、(4)は産業の全權力を資本家の手から勞働者に移し、勞働者によつて産業を管理すること、現在は主として(4)の意味に於て使用せらる。

勞働價値說

本編參照。

勞働サンデー

勞働日曜、一九〇九年(明治四十二年)のA、F、L、(勞働總同盟)の大會で、米國の敎會は勞働デー(九月の第一月曜)直前の日曜に勞働問題の說敎をなすべしと決議した。A、F、L、の有勢な地に於て行はれてゐる。

勞働デー

勞働階級の國際的休日、その日には多く行列、ピクニック(山遊び)屋外示威運動、集會等を催す。米國のA、F、Lは九月の第一月曜、歐洲諸國及び吾國に於ては五月一日である。故にメーデーともいはれる。

勞働祭

メーデーの譯。

勞働市場

普通に一定時に於ける一定場所の需要に對するみ勞働供給を指す抽象的な語である。職業紹介所の如き有形的な場所を指すのではない。

勞働貴族

高い賃銀を受け、階級意識なく、職業心理を有してゐる熟練勞働者を指す。

勞農革命

ロシヤの一九一七年(大正六年)十一月革命をいふ。

ロックアウト

工場閉鎖、締め出しと譯す。勞働者のストライキに對する資本家の戰術である。本編勞働爭議の戰術の項に參照。

ロシヤ革命デー

十一月七日。

一、無産紀念日一覽表

一月十五日
カール・ローザ・デー又はリーブク、ルクセ、デー。一九一九年ドイツ革命家カール及ローザ死刑に處せらる

一月二十一日
レーニン・デー、一九二四年レーニン死亡

一月二十四日
中勞爭死刑デー

二月二十五日
國際失業闘爭デー

三月一日
朝鮮獨立萬歲紀念デー

三月二日
一九一九年第三インターナショナル創立

三月三日
水平社創立デー

三月五日
山宣(山本宣治)暗殺紀念デー

三月八日
國際無産婦人デー、一九一七年ロシア革命勃發

三月十四日
マルクスデー、一八八三年マルクス死亡

三月十五日
共産黨檢擧デー、山宣、渡政の勞農祭

三月十八日
パリ、コンミユンの紀念日であるが、又國際赤色救援會(モツプル)の紀念日であると稱する向もある。

四月十日
左翼結社禁止デー

四月十六日
共産黨檢擧デー

五月一日
メーデー

五月二十六日
復讐ビス反對デー

六月一日
全農立禁(立毛差押禁止)反對デー

六月二日
張作霖犧牲デー

六月十九日
死刑法發布デー

七月第一土曜
國際消費組合デー

八月一日
國際反戰赤色デー

八月三日
米騒動皮切デー

八月二十二日
サツコ、バンゼ(米國共産主義者で死刑となる)デー

九月第一日曜
國際無産青年デー

九月三日
全國總聯合決裂デー

九月十六日
大杉(大杉榮)虐殺紀念デー

十一月七日
ロシヤ革命紀念デー

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
第二無產者新聞	昭和四、九、九	東京第二無產者新聞社	月六回（一日五日十日十五日二十日二十五日）	四六四倍大四頁	最左翼共產主義	日本共產黨准機關紙
救援新聞	同四、一二、二一	同赤色救援會日本支部	月一回（不一定）	四六四倍大四頁	同	赤色救援會日本支部機關紙
反帝新聞	同	同日本反帝同盟	同	同	同	日本反帝同盟機關紙
勞働新聞	同二、八、五	同勞働新聞社	月二回（五日二十日）	四六四倍大四頁乃至二	同	勞働組合全國協議會一派機關紙
無產青年	同三、七、五	同無產青年社	同	同型四頁乃至二	同	舊全日本無產青年同盟一派機關紙
自由と生活	同四、二、二	島根自由と生活社	月一回（十五日）	同型四頁	同	「勞農」同盟系一派ノ機關紙
土地ト自由	大正一三、四、二〇	大阪全國農民組合本部	月二回（一日二十日）	四六四頁大四頁乃至二	同	全國農民組合機關紙

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
勞働者農民新聞（舊名「勞働農民新聞」）	昭和二、一、一五	東京市勞農黨本部	月三回（一日十一日二十一日）	同型四頁乃至二	左翼共產主義	勞農黨機關紙
日本交通勞働新聞	同四、七、二六	同日本交通勞働新聞社	月一回（不一定）	普通新聞大四頁	同	日本交通勞働總聯盟機關紙、但シ本聯盟ハ右翼中間各種ノ分子ヲ包含ス
全國大衆新聞	同四、一、二一	東京日本大衆新聞社	月三回（一日十日二十日）	同	中間派	全國大衆黨機關紙
昭和大衆新聞（組合總聯合改題）	同八、六、一五	大阪日本勞働總聯合本部	月一回（五日）	同	同	全國大衆黨系日本勞働組合總聯合機關紙
全國勞働新聞	同四、一〇、七	同全國勞働新聞社	月一回（二日）	同	左翼現實主義	勞働組合全國同盟機關紙
逓信勞働新聞		市川町逓信勞働新聞社	月一回	同	右翼勞働組合主義	逓友會志ノ機關
官業勞働新聞		大阪市官業勞働總同盟本部			右翼勞働組合主義	官業勞働總同盟機關紙
勞働者新聞	大正一五、一一、二〇	同勞働新聞社	同	菊二倍大二頁	右翼勞働組合主義	日本勞働總同盟大阪聯合會機關紙
日本民衆新聞	昭和三、四、八	東京日本民衆新聞社	週刊（月曜日）	普通新聞大四頁	右翼現實主義	社會民衆黨准機關紙

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
社會民衆新聞	同 三、一二、六	同 社會民衆新聞社	月一回（十日）	菊四倍大 四頁	同	社會民衆黨機關紙
自由聯合新聞	大正一二、四、二二	同 全國勞働組合自由聯合會	月一回（一日）	普通新聞紙大四頁	無政府主義	全國勞働組合自由聯合會機關紙
芝浦勞働	同 一三、九、二九	同 芝浦勞働組合	月二回（不定期）	菊二倍大 六頁內外	同	芝浦勞働組合機關紙
瓦斯勞働	昭和 四、七、一〇	同 瓦斯工組合	月一回（不定）	同型 四頁	同	右組合系 東京瓦斯工組合機關紙
黑色青年	同 四、二、九	埼玉黑色青年發行所	月一回（一日）	四六四倍大 四頁	同	黑色青年聯盟機關紙
解放新聞	同 四、八、五	東京解放新聞社	月六回（五日）	普通新聞紙大四頁	同	解放戰線社系 後藤學三、山田貞一、一派機關紙
自由聯合運動	同 五、二、一	千葉自由聯合運動社	月一回（不定）	四六四倍大 四頁	同	全國勞働組合自由聯合篤議會組織準備會
東京大衆新聞	同 四、二、一五	同 東京大衆新聞社	月（不定）	菊四倍判 四頁	中間派	同一派機關紙

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
インタナショナル	昭和 三、七、一	東京產業勞働調査所	月一回（一日）	菊判 六十頁內外	最左翼 共產主義	共產黨一派ノ有力ナル機關紙
プロレタリア科學	昭和 三、一〇、一	同 プロレタリア科學研究所	月一回（一日）	同 百頁內外	同	プロレタリア科學研究所機關紙
マルクス主義研究（無產者教育ヲ三月號ヨリ改題）	同 四、六、三	同 國際思潮社	月一回（五日）	同	同	共產主義理論雜誌
勞働者教育	同 四、一一、一	同 太平洋書房	同	同 三十頁內外	同	共產主義教育雜誌
新聞戰線	同 三、一二、五	同 新聞戰線社	同	同 百頁內外	最左翼 共產主義	著評議會系
新聞前衛	同 四、四、七	同 新聞前衛社	月一回（不定）	同 七十頁內外	同	新聞販賣勞働組合機關誌
產業勞働時報	同 四、六、七	同 產業勞働調査所	月一回（一日）	同 五十頁內外	同	共產黨系ノ上記調査所ノ調査報告
工場	同 五、二、一五	同 左翼書房	月一回（不定）	同 八十頁內外	同	日本勞働組合協議會系

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
農民闘爭	同五、三、一〇	農民闘爭社	月一回（不定）	同五十頁内外	同	全國農民組合左翼
進め	大正一三、三、一〇	進め社	月一回（一日）	四六倍判三十頁内外	同	勞働組合同盟刷新會機關誌
社會問題研究	昭和四、三、二五	東京同人社書店	月一回（不定）	菊判八十頁内外	同	河上肇一派ノマルクス主義研究雜誌
勞農	昭和二、一二、一	東京勞働社	同	同	同	所謂勞農派ノ機關誌
勞働大衆	大正一五、一二、二〇	日本勞働組合同盟	月一回（不定）	四六倍判十頁内外	中間派	日本勞働組合同盟機關誌
組合總聯盟	昭和四、六、一七	日本勞働組合總聯合本部	月一回（五日）	同一六頁内外	同	全國大衆黨系日本勞働組合聯合機關誌
問題	大正九、三、二一	問題社	同	同二十頁内外	同	無產派ヲ標榜ス
解放	同一三、五、一	解放社	月一回（不定）	同頁數不定	同	山崎今朝彌ノ個人雜誌ニシテ全國大衆黨ヲ支持ス
勞働	昭和四、七、一	日本勞働總同盟	月一回（一日）	同二十頁内外	右翼現實主義	總同盟機關誌
海員	同一一、七、一	兵庫日本海員組合	同	同百頁内外	同	日本海員組合機關誌
勞働組合	同四、四、三〇	大阪勞働組合社	月一回（不定）	同五十頁内外	同	社會民衆黨大阪支部一派デ發行ス

三、文藝雜誌

名稱	創刊年月日	發行所	發行回數	體裁	思想系統	機關紙其ノ他ノ關係
戰旗	昭和三、五、一	東京戰貨社	月一回（一日）	菊判一八〇頁内外	最左翼共產主義	昭和五年八月迄「ナップ」ノ機關紙
少年戰旗	同四、五、一	同	同	同一二〇頁内外	同	同
ナップ	同六、一、	同	同	同	同	全日本無產者藝術團體協議會機關紙
プロ美術	同四、一一、一	同プロ美術社	同	同六〇頁内外	同	日本プロレタリア美術家同盟機關紙
前衛	同四、二、一〇	靜岡全日本無產者藝術團體靜岡地方協議會	同	同四〇頁内外	同	全日本無產者藝術團體靜岡地方協議會機關紙

新興映畫	同 四、九、一	東京 新興映畫社	同	菊判	同	ナップ系プロレタリヤ映畫聯盟準機關紙
力働	同 四、一〇、二三	京都 力働社	同	同 四〇頁內外	同	ナップ系
文線	大正 一三、九、一	同 文藝戰線社	同	同 一八〇頁內外	左翼 共產主義	勞農藝術家聯盟機關紙
十月	昭和 三、一二、一	東京大學 左派綱領部	同	同 一五〇頁內外	同	東京帝國大學左翼藝術家機關紙
×社會認識	同 三、五、一	同 社會認識社	同	菊倍判 百頁內外	同	左翼インテリゲンチヤ的
新文化	同 三、三、一	同 新文化建設聯盟	同	菊判 八〇頁內外	同	新文化建設聯盟機關紙
尖兵旗	同 三、一〇、一三	同 尖兵旗藝術聯盟本部	同	同 三〇頁內外	同	尖兵旗藝術聯盟機關紙
前衛文學	同 四、一二、一	同 前衛文學社	同	同 五〇頁內外	同	左翼文藝家同人雜誌
▲新興詩學ノ旗ノ下ニ	同 四、一二、一	同 新興詩學ノ旗ノ下ニ社	同	同 二〇頁內外	同	分派的左翼詩人同人雜誌

▲プロレタリヤ詩人	同 四、一二、一	同 プロレタリヤ詩人社	同	同	同	
前衛詩人 「前記二誌」合同	同 五、三、一	同 前衛詩人社	同 一月一日)	菊判 二〇頁內外	同	プロレタリア詩誌戰線統一強義會加盟誌
廣場	同 四、四、一〇	同 廣場編輯所	同 一月一定)	菊判 三〇頁內外	同	不明
群馬戰線	同 三、一一、一	群馬 群馬戰線社	同 一月一日)	同	同	勞農黨系
大衆	同 四、四、一	東京 衆社	同	菊判	同	各派合同大衆文藝社
短歌前衛	同 四、九、一	同 短歌前衛發行所	同	同 五三頁內外	同	短歌各氣ノ合同シテ出來上リシモノ
新興歌人	同 四、一〇、二	同 素玉堂書店	同	同 五〇頁內外	同	無產階級短歌雜誌
×クラルテ	同 四、一、二七	鳥取 山陰新興藝術家同盟	同 一月一定)	同 四〇頁內外	同	山陰新興藝術家同盟機關紙
勞働藝術家	同 三、六、一	東京 全國勞働藝術家聯盟	同 一月一日)	同 五〇頁內外	同	全國勞働藝術家聯盟機關紙

河	同五、三、一五	同	河社	一月一日	同三〇頁内外	同	プロレタリア交學同人雜誌	
新興文學	同三、三、一〇	同	平凡社	同	四六判六〇頁内外	共産主義系	新興文學全集ノ附錄トシテ發行	
新紀元	同四、三、一五	同	新紀元藝術家聯盟	同	菊判一九頁	交藝ノ大衆化ヲ標榜ス	無産階級文藝雜誌	
×ソヴエート藝術	同四、四、一	同	日露藝術協會	一月一日	菊判一二〇頁	ロシア文化紹介ヲ目的トス	日露藝術協會機關誌	
演劇	同四、五、一五	同	テアトル社	一月十五日	四六倍判二四〇頁	無産派演劇支持	無産派演劇支持	
新興演劇	同五、一、一	同	大阪新興演劇社	一月一日	菊版一一〇頁	廣ク新興演劇運動ヲ標榜ス	新興演劇運動者同人雜誌	
劇場文化	同五、二、一	同	東京劇場文化社	一月一日	同一八〇頁	新興演劇支持	築地、新築地大衆座等隨伴者的劇場又ハ前衛劇團タル左翼劇場支持	
前哨	同四、一一、七	同	山梨無産者藝術聯盟	一月（不定）	四六倍判三〇頁内外	最左翼共産主義	單ナル地方的左翼文藝團體機關紙	
線	同二、五、一	同	東京社	一月一日	菊判二〇頁内外	無政府主義	アナキズム宣傳線社機關紙	

黒戰行	同四、五、一	同	黒戰行社	一月一日	同一七頁	同	アナキズム評論	
▲黒（黒色戰線改題）	同四、一一、一	同	黒色戰線社	一月五日	同九〇頁内外	同	無政府主義文藝理論雜誌	
大地に立つ	同四、一〇、一〇	同	春秋社	一月一日	同四〇頁内外	同	加藤一夫ノ主宰スル農民文藝誌	
婦人戰線	同五、三、一	同	婦人戰線社	一月一日	菊判六〇頁内外	同	無産婦人藝術聯盟機關紙	

（以印刷代謄寫）

古書籍売買
博文堂書店
都立大学・八雲通り
783